

## 地域スポーツの可能性探る 山形でクラブ育成フォーラム



総合型地域スポーツクラブが地域づくりに果たす役割などを考えたフォーラム＝山形市・山形グランドホテル

総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムin山形(山形新聞社、県体育協会、日本体育協会など主催)が24日、山形市の山形グランドホテルで開かれ、スポーツを介した地域コミュニティづくりの可能性などについて考えた。

日体協総合型クラブ育成委員を務めるテレビ朝日アナウンサーの宮嶋泰子さんは基調講演で「スポーツの本質は実利性のかなたにある面白さであり楽しさ。総合型クラブでも、身体と精神の快感を得るという軸をぶらしてはいけない」と助言。2部では「地域スポーツの可能性」をテーマに、国内外のクラブ事情に詳しい黒須充福島大教授、マイ・スポーツひがしねを運営する小野薫クラブマネジャー、シドニー五輪競泳日本代表で現在は山梨学院大カレッジスポーツセンター研究員の萩原智子さんが、宮嶋さんのコーディネートで意見を交わした。

黒須教授は、クラブが子どもの体力向上や高齢者医療費の抑制、地域コミュニティの再生などに貢献している事実を挙げ「スポーツが文化として定着するかどうかの分岐点にある今、総合型クラブの果たす役割は大きい。クラブは社会を変えるきっかけになる」と力説。萩原さんは地元自治会のスポーツクラブでの遊びを通じた運動がその後の競泳の土台になったとした上で「指導者である地域のおじさん、おばさんから声を掛けられ自信になった。体力だけでなく心にも大きな影響力がある」と体験談を語った。小野さんは「知らない人同士のつながりが増えていく」「若い世代を参加させるのが困難だ」などと実践者の視点で効果や課題を紹介した。

文部科学省委託事業として開催。県内のスポーツ界や自治体関係者ら約300人が参加した。

山形新聞の記事より